

# ザンビアJAZ-ACTIVEプロジェクトの紹介

結核予防会国際部

カエベタ 亜矢



ザンビア共和国（以下ザンビア）における予防会活動拠点である現地事務所（RIT/JATA-ZAMBIA）は、昨年9月の現地でのNGO登録を完了したばかりの新しい事務所です。皆様ご存じのように、結核研究所は、海外での活動経験は豊富で、ザンビアでも、これまで、JICAプロジェクトを通じた日本人専門家の派遣、ザンビア人専門家の招聘・研修を通じて活動がされてきました。昨年の12月には、第一回結核研究所主催のセミナーが、首都のルサカ市にて実施されました。結核研究所で実施している国際研修の歴代の卒業生と、現地の結核対策の中心的な役割をしている人々70名が全国から集まり、現地ネットワークの強化が図られました。保健大臣も参加され、結核予防会への期待が大きいことが実感されました。



第一回RITセミナー（2008年12月2日実施）

現在、RIT/JATA-ZAMBIA事務所では、大きく分けて2つのプロジェクトが進行しています。1つは、TBCAP（The Tuberculosis Control Assistance Program）、もう1つは、JAZ-ACTIVE（JATA-ZATULET-Active Case finding of Tuberculosis Involving Volunteers Empowerment）projectです。TBCAPは、国際組織が提携して、世界各国で実施している結核対策プロジェクトで、ザンビアでも、WHO、FHI（Family Health International）とともに、結核予防会が関わっています。JAZ-ACTIVE projectは、ザンビアの住民を

支援がなされ、治療が終了できるように支援します。結核ボランティアは、患者と同じコミュニティーの人達ですが、研修、実習などを経て、知識・技術を身につけます。

患者の数は多いのに、医療スタッフは不足しているという状況では、結核ボランティアは欠かせない存在です。プロジェクトでは、資金・技術面

巻き込んだコミュニティー結核対策プロジェクトで、外務省の日本NGO連携無償資金協力と複十字シール募金による資金の協力を得て実施しています。

今回は、このJAZ-ACTIVE projectについて、簡単にご紹介します。ザンビアは、アフリカ中南部に位置しますが、成人のHIV感染率は16%、世界で最も感染率が高い地域として知られます。HIV感染者は免疫力が下がるため、様々な感染症にかかりやすく、エイズ患者のほぼ半数は結核で亡くなるといわれています。一方、結核罹患率は、10万人当たり553人（2006年WHO推定値）で、その7割近くがHIV感染をしているといわれています（ザンビア保健省の2006年推定値ですが、近年抗エイズウイルス治療の効果もあり減少傾向にはあると推定されます）。ザンビアの結核患者は、①診断をするまでの過程、②治療を完了するまでの過程で、様々な理由によって挫折せざるを得ない状況に陥ります。その背景には、貧困・医療サービスが整備されていない等の問題があります。我々のプロジェクトでは、地域の中に、診断センターを置き、痰の検査とレントゲン検査を無料で提供します。これにより、患者が容易に診断機関に通うことができるようになり、費用などの心配もありません。ザンビアの一般的な結核治療では、8ヵ月間という長期に渡り、毎日欠かさず服薬をする必要がありますが、その間も、結核ボランティアによる患者への服薬



結核ボランティアによる患者教育のための寸劇

の協力をしますが、主役は住民、ということになります。JAZ-ACTIVE projectも、現地事務所と同様に、昨年8月に始まったばかりの新しいプロジェクトで、軌道に乗せるまでにはまだ時間がかかりそうですが、今後、住民と協力し合いながら、現地に根差した息の長い活動となることを目指しています。